



## 女性会長にインタビュー

### Q. 女性会長になってみて思うことをお聞かせ下さい。

#### よかったこと

- 以前から、さまざまな分野の地域活動に関わり、そこで培った経験や人脈が、会長になってから役立っています。(全員)
- 行事への参加者が増えるなど、町内の雰囲気明るくなり、活動も活発になったと地域の皆さんから喜ばれています。
- 長年続けてきた行事が続けられなくなった際に、それまでの地域活動で培ってきた経験を生かし、さまざまな工夫を行ったことで、行事への参加者や行事に協力して下さる方が増えてきました。そのようなときに、大きな喜びを感じました。
- 「女性の会長なので相談しやすい」と、さまざまな相談を受けていますが、話をすることで気持ちが晴れたと言われるときや、具体的な課題を解決できたときなどに、会長を受けてよかったと感じます。
- 女性の会長を盛り立てようと、役員が力を合わせ、また、行事に多くの方が笑顔で参加してくれるときなどに、会長職のやりがいや充実感を覚えます。
- 女性も遠慮せずに活動に参加できるようになったという声がうれしいです。

#### 苦労したこと

- いまだに男性優位という考えを持つ男性もあり、女性が会長であることにに対し、「女のくせに」という態度を示される時もありました。相手を立てながら協力を引き出すことを心がけ対応しましたが、正直なところ、このような場合はストレスを感じることもあります。
- 男性の会長も同様かと思いますが、役員を決めたり、総会の議長を決めたり、民生委員を推薦したりするときは、やはり大変でした。
- 地域の児童数の激減や高齢化などにより、盆踊りのやぐらを建てるのが困難になった際に、自治会館で行うなど、行事の内容を工夫して対応しました。

### ～インタビューにご協力いただいた会長の皆さん～

汐見台町内会長 天城美佐子さん 吉倉町内会長 加藤 孝子さん  
 荒巻町内会長 遠藤 博子さん 観音崎自治会長 齋藤 洋子さん

ありがとうございました。

### Q. 役員構成とその男女比、町内会における男女の役割分担について教えてください。

平成26年12月現在				
	汐見台町内会 (512世帯)	吉倉町内会 (450世帯)	荒巻町内会 (770世帯)	観音崎自治会 (660世帯)
役員数	24	17	12	16
(内訳)女性	8	4	4	10
	16	13	8	6
女性比率	33%	24%	33%	63%

- 会長が女性なので、副会長には男性にも就任してもらっています。(全員)
- 役割分担については、主に女性が担っている分野、主に男性が担っている分野というものはあります。
- 防災や防犯活動は男性が中心となり、ごみの出し方などの環境美化や高齢者宅の訪問など高齢者福祉は女性が中心となり取り組むことが多いです。
- 高所作業や力仕事は男性が、会計や総務は女性が従事することが多くなっています。
- これまでの慣習から、役員名簿上は男性(夫)の名前で登録して、実際は女性(妻)が活動に参加することが多いです。
- 女性と男性とで自然なかたちで協力し合い活動しています。

### 地域における男女共同参画について

「地域」は私たちにとって最も身近な暮らしの場であり、その方針決定の過程には男性、女性双方の参画が必要です。そのため、国の第3次男女共同参画基本計画や横須賀市の第4次横須賀市男女共同参画プランにおいても目標を定め、地域活動における男女共同参画の推進に取り組んでいます。

#### 【表】国の目標

主体者	項目	現状	成果目標(期限)
国	自治会長に占める女性の割合	4.1% (平成22年)	10% (平成27年)

#### 【表】横須賀市の目標

主体者	項目	現状	成果目標(期限)
横須賀市	町内会・自治会における女性役員割合	26.7% (平成23年)	30% (平成28年)



## 取材を終えて

男女共同参画市民サポーターの有志による編集会議で、テーマの検討からインタビュー、記事作成に至るまで、作業を行いました。

編集委員に、感想を伺いました。

★ご多忙中、インタビューを引き受けて頂いた女性会長の皆さまに感謝申し上げます。

私たちの生活基盤である町内会や自治会が、男女共同参画に関心を持ち、開かれていなければなりません。地域によって差はあると思いますが、現実はいまだに「女のくせに」などの意識が残り、男女共同参画について理解されない社会だと思っていました。今回、横須賀市内の女性会長25名のうち4名の方にお話を伺い、町内会・自治会に女性リーダーとして新しい考えを吹き入れ、地域を盛り上げていこうとする気概に圧倒されました。それは町内会・自治会活動に関わる以前からの多くの人との出会いや、さまざまな経験で育まれたボランティア精神の女性パワーであり、細やかさなのかもしれません。そしてパートナーの支え、家族の協力も計り知れないことも感じました。また、役員名簿上は男性(夫)の名前でも、実際は多くの女性が町内会活動に参加し、地域を支えているという現状をあらためて認識しました。

皆さんの話の中で何度か出てきた「話し合いが出来るようになった。」「人の意見を聞き認め合うことが大切。」「自分たちの町を自分たちの手で守らなくては。」という言葉が印象的で、大切なことだと思いました。住民同士の緊密なコミュニケーション、そして町内の協力は防災活動にも重要だと思います。

(伊東 明美)



★町内会長が女性に変わるだけで、役員会の男女共同参画が動き出すことが分かりました。男女には科学的な事実として身体のみならず心(脳)にも違いがあります。女性会長には男女の心身の違い、特に心の違いを軽視せずに、男性、女性の双方の合意形成の上で役割を分担し合い、仮に男性から理解に苦しむ言動が寄せられた場合でもその真意をくみ取る努力をしていきたいと思います。男女には体力差だけでなく、心身に違いがあるからこそ、女性はこれまでの男性中心の社会で息苦しさを感じてきたのではないのでしょうか。逆に、女性中心の社会になれば今度は男性が息苦しさを感じるようになると思われま。

男女には経験的にも科学的な事実としても心身に違いがあるからこそ“男女共同参画という手法”によって、話し合い、協力し合って男女ともに居心地の良い社会を創り上げて行く必要があると考えて、私は長年にわたって男女共同参画市民サポーター活動を続けてきています。これまで男性主導であった地域社会においても、この科学的事実を踏まえ、男女共同参画という手法による、男性、女性双方が暮らしやすい環境の構築により多くの女性会長が手腕を発揮されることを期待します。

(関 昌夫)

★今回取材に応じていただいたのは、たまたま皆さん70歳代の「輝く女性」たちでした。安心感と信頼感、そしてその包容力は、まさに地域のお母さんの存在。元気のなかった町内会や自治会を活性化し、地域の皆さんの気持ちを見事にまとめ上げた、その卓越したコミュニケーション能力と運営能力は、企業経営や政治の世界にも参考になるのではと感じたほどです。今回、紙面の都合上、彼女たちの地域での「改革」を紹介できなかったのが残念です。

これまでは、男性主導になることが多かったですが、女性も、男性とは違った手法で、組織をスムーズに運営できるということがわかりました。これまでの慣習にとらわれず、女性をリーダーに据えてみるのも“あり”だと思いました。

(原田 絵里子)